

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立相知小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>学力向上は以上のまでの取組については、方針調整の指針、全員による研究授業を通じて、研究内容の共通理解を促し、深め、実践していくことができた。R7年度は教科を「国語科」に絞って研究をすすめていく。</p> <p>・業務改善については、業務内容の精選、見直し、校務の整理を行うことで、R7年度へ向けての「業務改善」の視点からの取組を行った。今年度も引き続き職員の高識づけを行っていく。</p> <p>・今後必要に応じて読り書き児童を育てていくために、保護者、地域、学校とのつながりをより緊密なものにするとともに、内容を充実させ、整理をしていく。</p>
2 学校教育目標	<p>保護者や地域と共に創る！ やる気・やさしさ あふれる 笑顔の花結う相知小 ONE TEAM!!</p> <p>～ おちついて うでくんで ちえをだしあう 相知っ子！ ～</p>

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的で深い学びに向けた教育活動の充実 ・人権・同和教育・平和教育、開発的生徒指導の深化 ・「公平」の理念に則った、特別支援教育の充実
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	
				評価	意見や提言	
●学力の向上	○個別最適な学び、協働的な学びを一体的に充実させた授業づくりをすることで、児童の学力の向上を目指す。	○10月のベネッセテスト国語の正答率が65%以上にすること。 ○児童意識調査「友だちと話し合ったり、考えたりすることで、学習内容が分かることが多い。」に対して肯定的に答える児童の割合を65%以上にすること。	・児童の思考力や学習内容の定着を目指し、目的をはっきりさせ、より効果的な個別最適な学びと協働的な学びを取り入れていく。			研究部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童の意識調査「周りの人を大切にしている」保護者アンケート「学校は友達と協力する心を育てる教育に取り組んでいる」という質問に対して肯定的に答える割合を90%以上にすること。	・人権意識および命を大切にすることを高めるための取り組みとして、人権委員会と協働して年1回、なかよしタイムを年7回実施する。 ・縦割り活動を計画的に実施し、異年齢集団の中で協力する心や相手の思いやる気持ちを育む。			特活部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事業対応等)について組織的対応ができていない回答する職員90%以上、保護者90%以上にすること。	・いじめ防止等についての研修を行い、全職員で共通理解をして組織的に対応に取り組む。 ・年2回学校生活アンケートを実施し、丁寧な聞き取りと児童の実態把握に努める。			生活部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と思うと回答した児童80%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている。」について肯定的な回答をした児童を80%以上にすること。	・相知っ子ノートや日々の学校生活の中で、子どもたちの頑張りを伝えるようにするとともに、行事や委員会等子どもたちの頑張りを共有できるような場を設定する。 ・児童会活動や特別活動、体験活動を行う際には、児童主体の活動を仕組み自己実現を図るとともに、高学年を対象に「ようこそ先輩」を実施するなど学年に応じて将来を考える場を設定する。			教務部
●健康・体づくり	⑥「望ましい生活習慣の形成」	○規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、休み時間に外や体育館で遊ぶなど、進んで自身の体力増進に努めようとする児童の割合を65%以上にすること。	・雨の日は、学年前体育館を開放する。 ・体育委員の児童と連携し、外遊びを奨励する取組を行う。 ・熱中症などに気を付けながら、スポーツチャレンジや体育的行事に積極的に参加するように呼びかける。			保体部
	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童を85%以上にすること。(小学5年生) ・朝食を摂って登校する児童を95%以上にすること。	・給食だけでなく保健だよりで食事の大切さを伝える。 ・体調不良で実室した児童に朝食内容の聞き取りを行い、必要があれば個別指導する。			
●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議及び連絡会で勤務時間管理の徹底を呼び掛け、時間外在校等時間が月45時間ベースに近づく職員がいれば、改善指導等を助言する。 ・年次休暇取得しやすい体制を整備するとともに職場の雰囲気醸成を図る。			運営部
●特別支援教育の体制強化と支援の充実	○職員間の情報共有や外部機関への協力を積極的に行い、よりよい支援の充実を図る。	○職員間の情報共有や外部機関への協力を積極的に行い、よりよい支援の充実を図る。	・SSWとの連携を積極的に行う。 ・相談や特別支援エリアリーダーへ相談をし、よりよい支援についてアドバイスをいただき、実践していく。 ・特別支援学級生クラスで集まる機会を増やし、チームで児童の実態把握や支援に当たれるようにする。			特別支援教育部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	
				評価	意見や提言	
◎保護者・地域との連携	◎育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の整理と充実	◎生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動について内容を整理しながら充実させることをとおして、地域の方との交流を図り、ふるさと相和に誇りをもつ児童85%以上を目指す。	・家庭や地域と学校の教育目標と必要な情報共有により信頼関係を基盤とした連携協働活動の活性化を図る。そして、地域学校協働活動の委員会等、活動の目的を必ず確認したうえで、地域のよさを活かす活動を仕組み、児童の地域貢献意識を育成する。			運営部

●...県共通 ○...学校独自 ○...志と誇りを高める教育
5 総合評価・次年度への展望